

＜教育目標＞

地域に生きる南台の子

知 かしこく 徳 やさしく 体 げんきよく

「知」、「徳」、「体」相互に関連し、豊かにかかわり合う教育活動を展開する。自分の生まれ育ったところ、過ごしたところを大切に思い、将来自らが暮らすところも大切にでき、広くグローバルな視点からも地域社会をとらえ直すことができる人材、将来地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

令和4年度 南台小学校～地域コミュニティの核となる学校

つながろう！南台

～つながる つなげる南台小

統合再編による開校以来、「地域コミュニティの核となる学校」を目指し、「連携教育」を推進する中で、学校の特色化と安定化を図ってきました。

7町会自治会をはじめ、関係幼稚園保育園、関係諸機関とのつながりを生かした教育活動の活性化を進め、安心安全が守られ、地域を生かした教育活動の充実があります。

周囲の方の学校への心寄せ「ボランティアマインド」は、児童に伝わり、相互の「ボランティアマインド」の醸成につながっていく相乗効果を大切にしてきました。

コロナ禍であっても一定程度のつながり感をもって教育活動を進められました。今年度も「連携教育」と「ボランティアマインド」をキーワードに地域とも共有しているテーマ、「つながろう！南台」を継続します。

コロナ禍での安全安心を第一に考えながら、Withコロナに向けた教育活動の工夫改善を進めます。新たな校舎の地でも「つながる つなげる南台小」として、令和4年度の教育活動を進めます。

学級経営の充実を基盤として

I 伝統と創造で南台の特色へ～学びをつなげる

「知」・「徳」・「体」バランスよく関連づけた教育活動の推進

①様々な人と豊かにかかわり合い、自分で自分を育てる

「知」→学び合って かしこい子に 学習をつなげる

- ・学習のきまりの徹底
- ・授業の充実（考える授業・かかわり合いながら）
- ・家庭学習等との関連 →授業と家庭学習、タブレット学習、補充学習等の連動

「徳」→支え合って やさしい子に 「感謝」で人をつなげる

- ・人間関係と集団帰属 ・道徳教育、人権教育推進（重点「感謝」「親切・思いやり」「生命の尊さ」）
- ・毎月の南台ハート週間（一斉道徳授業）→行事、特活、道徳、各教科等の関連付け

「体」→きたえ合って げんきな子に 遊びと運動をつなげる

- ・体育授業の充実と豊かなスポーツライフの実現
- ・体育朝会・休み時間遊び等のつながり

- ・自分の体を知る・生活リズム→運動量重視の体育学習（コロナ禍の中で）

②受け継いだ教育活動の改善 + 新たな発想で児童が創る教育活動

+ コロナ禍の中での工夫した教育活動（学習を止めない）

+ G I G A スクール構想（タブレット配付）にマッチした取り組み

+ 学校行事は学習を止めない方向で

（分散した形での行事の実施 例：運動会学年別）

Ⅱ 地域の風が行き交う学校（双方向の交流）

～地域社会、家庭とつながる

地域は屋根のない教室・南中野の地域の中の学校
地域の「ひと・もの・こと」との出会い、かかわり

①安全、安心を当たり前にあいさつ・へんじ、あつまり、あとしまつ
～学校でも、地域でも、家庭でも

②地域防災会・町会の意識～当たり前を守られていることへの意識

- ・登下校時の見守り支援 ・通学路安全運転呼びかけ隊への登録を
- ・移転への準備、応援 ・朝遊び（土曜授業日）の試行

③連携教育推進～保幼小中連携教育 <役割を果たし、垣根を低く>
+ 保護者、地域、児童館、PTAの皆様と・・・つながって

- ・連携の力で1 + 1 を2以上に（時には1 + 1 を2に）
- ・保護者会の工夫改善（PTAクラス委員と学級学年担任で）
- ・南中野地区青少年赤十字奉仕団への加盟→ボランティアマインドの醸成

④「地域ふれあい学習」の活性化と日常化と維持

- ・図書、図工に加え寺子屋、図書室・PC室開放見守り他ボランティア募集
- ・校外学習付き添い ・保護者参加型学習 ・学年だよりでの広報 ・日常的な実施

- ・地域ふれあい学習の日<1月14日(土)>・様々な人財(地域の方・おなじみ)の活用
- ・南台小 学校支援ボランティアへの登録を+ボランティア組織(学校支援組織)構築
→ボランティアマインドの醸成

Ⅲ 一人一人の子におしめない支援を ～その子への支援の輪をつなげる

2学期制の趣旨を十二分に生かした継続的な支援

①「個」を生かす から 「個」が生きる へ

- ・全学年副担任制、算数少人数指導で、「よさ」の共有をし、きめ細やかに接します。
- ・特別支援教育(前面掲示の工夫、座席の配慮、巡回指導 等)をどの子にも必要なことととらえ、推進します。<学校生活支援シートの活用>
- ・2回の教育相談週間→個人面談7月、12月と2回の評価・評定→通知表10月、3月(4回の機会で生活・学習状況を詳しく伝え、目的意識を共有します。)
- ・指導と評価の一体化(教えたこと=分かったこと ではない)を推進します。

②教育相談機能の充実

- ・年度初めは必ず担任と言葉を交わし、相談が必要な場合、相互の申し出を実施。
- ・三者面談も必要に応じて活用。
- ・12月の教育相談週間は、相互の希望制。
- ・児童指導資料、保健調査カードへの確実な記載。
- ・相談は随時行い、教育相談週間では副担任や専科教員とも相談する。
- ・心の相談室(そよかぜルーム)を週2回(月・金)開室しています。SC、心の教室相談員等との連携。

③各々の役割の意識

- ・「個」が生きる ことは 「自分」も「人」も大切にすること
- ・児童の自立に向けた適切な支援～学校の役割 家庭の役割 地域の役割
- ・学校は・・・がまんするところ がんばるところ(我慢と努力)
- ・我慢と努力が自分のために、そしてみんなのために (ならぬものはならぬ)

学校は・・・

やりたくても やってはいけないことは やらないところ
やりたくなくても やらなければならないことは やるところ

◎教職員の働き方改革をより進めていく～子供と向き合う時間の確保

